

特長あるブランドニジマス作出研究

(予算区分 県単 研究期間 平成21～23年度)

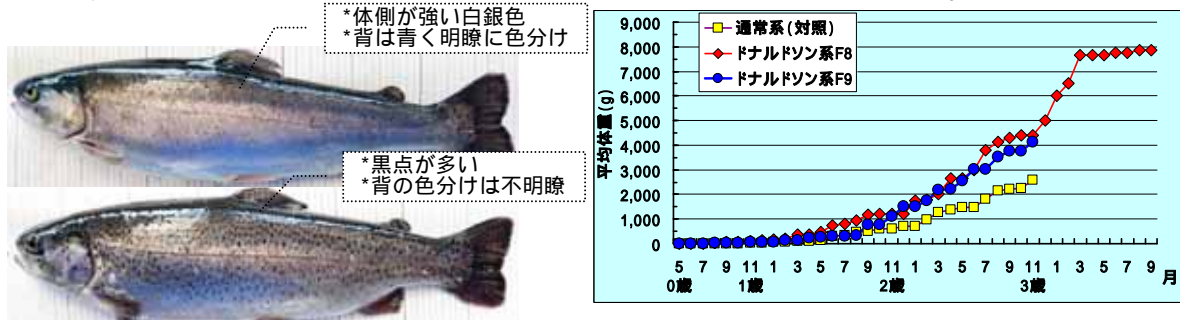
担当：富士養鱒場 川合範明

【研究の背景とねらい】

- ・養殖魚は環境の管理が可能という特徴から、安全安心な魚として認識され、消費者は食材を選ぶ基準は品質が重要な要素になっています。それに加え、特徴のある食材も望んでいます。
- ・養鱒経営は飼料費など高騰などにより、苦しさが増しています。そのため高品質な付加価値のある魚の生産により、乗り切ろうと考えています。
- ・当场では品種改良を行い、優良形質を持った新しい魚の作出を行いました。
- ・その結果、消費者ニーズにあった品種（静岡型のドナルドソンニジマス）ができました。
- ・これをブランド化するため、形質の差別化を行います。
- ・また、本品種に適した飼育方法を開発します。

【これまでに得られた成果】(平成21年度の成果)

- ・ドナルドソン系と通常系の飼育特性等の差を検討した結果、ドナルドソン系は通常系より成長は良いものの、高密度飼育での生残率が低い傾向がみられるなど、品種に適した飼育方法開発のためのデータが得られました。
- ・同条件で飼育した2品種のニジマスについて肉質の成分分析や食味の官能試験を行い、品種肉質の特性を検討しました。
- ・ニジマス等の川魚で問題となる泥臭さの原因について、比較飼育試験により検討した結果、藻類を誤食している個体では肉が着臭することがわかりました。



【期待される成果】

- ・優良形質を持った品種を確立・ブランド化することにより、販売力のある製品が開発され、養鱒業の経営が安定します。
- ・消費者に対し特徴のある、おいしいニジマスを提供することが可能となります。
- ・ブランドニジマスを使った地域おこしに役立つことが期待されます。

【今後の計画】

No	細目研究課題名	内 容	21	22	23
1	形質評価基準の策定	目標とする品種を差別化するための評価基準を明確にする			
2	D系ニジマス生物特性の把握	D系と通常ニジマスの飼育特性、肉質の特性について比較し、販売戦略の目標を探索する			
3	D系ニジマス飼育技術開発	本種の特徴を引き出せるような適正な飼育密度などの飼育方法を開発する			

(作成 平成22年4月)